

2023年7月25日

## 2023年度 第7回Jリーグ理事会後会見発言録

2023年7月25日(火)17:15～

Web ミーティングシステムにて実施

登壇： 大城 亨太 クラブライセンス事務局 クラブライセンスマネージャー

司会： 仲村 健太郎 広報部長

### 〔司会(仲村広報部長)より説明〕

本日開催いたしました第7回理事会後の会見を開催いたします。

理事会の決議事項及び、理事会の決議事項以外で本日公表させていただく事項についてご報告いたします。

### 《決議事項》

#### ■Jリーグ百年構想クラブからの脱退

<https://aboutj.league.jp/corporate/release/26344/>

Jリーグは、沖縄SV(JFL)についてJリーグ百年構想クラブから脱退することを承認いたしました。脱退理由は2022年12月の制度改定により、Jリーグ入会要件からJリーグ百年構想クラブであることが外れたことにより、これまで必須であった百年構想クラブでなくともJ3ライセンスの取得に支障がない状況となったためです。

クラブはこれまでと変わらずJリーグ入会を目指し、ホームタウンの自治体やスポンサーからの支援、ファン・サポーターの声援を受け活動して参ります。

### 《報告事項》

#### 1. 2022年度クラブ経営情報開示(確定版)

[https://aboutj.league.jp/corporate/management/club/?\\_ga=2.8780082.629259894.1690330410-406658459.1641530542](https://aboutj.league.jp/corporate/management/club/?_ga=2.8780082.629259894.1690330410-406658459.1641530542)

こちら既にコーポレートサイトに資料を掲載しています。

5月に58クラブ中56クラブを先行して発表いたしました。この度、柏レイソル、湘南ベルマーレを含めた全58クラブの決算情報が揃いましたので、確定版として公表いたします。

なお、主なトピックスとしては前回の先行発表から傾向としては変わっておりませんので資料をご確認いただければと思います。

#### 2. 2024シーズンのクラブライセンス審査について

9月以降、来シーズンのクラブライセンスの審査について公表させていただく予定ですので、予め審査の内容、スケジュールについて、クラブライセンスマネージャー大城よりご説明いたします。

〔大城クラブライセンスマネージャーより説明〕

■クラブライセンスの種類および審査時期

クラブライセンスの種類および審査時期



- クラブライセンスは AFC、J 1、J 2、J 3 の 4 種類。以前は J 1 クラブライセンス = AFC クラブライセンスであったが、ACL のシーズン移行に伴い、本年度より J 1 クラブライセンスとは別に、ACL 出場予定クラブについて AFC クラブライセンス判定を実施。
- AFC クラブライセンスおよび J 1 クラブライセンスは、クラブライセンス交付第一審機関（F I B）によって判定が行われる。
- J 1 クラブライセンスが不交付となった場合は、J 2 クラブライセンス または J 3 クラブライセンスの判定が J リーグ理事会にて行われる

ライセンス	内容	判定機関	審査時期
AFC クラブライセンス	AFC クラブライセンス ※ACL 参加条件	クラブライセンス 交付第一審機関 ( F I B )	5月 ※5月30日に対外発表
J 1 クラブライセンス	国内ライセンス ※基準はAFCクラブ ライセンスと同様	クラブライセンス 交付第一審機関 ( F I B )	9月 ※9月下旬に対外発表予定
J 2 クラブライセンス	国内ライセンス	J リーグ理事会	10月 ※理事会後会見にて対外発表予定
J 3 クラブライセンス	国内ライセンス	J リーグ理事会	9月(新入会希望クラブ) 10月(既存 J 3 クラブ) ※理事会後会見にて対外発表予定

2

クラブライセンスの審査のスケジュールにつきましては 6 月末に各クラブから申請書類の一式をご提出いただいております。このあと審査が本格化していくという流れになります。

ただ財務基準や施設基準で皆様からご質問いただくことも増えてきていますので、改めてスケジュールと基準の内容をご説明いたします。

クラブライセンスの種類ですが、アジアサッカー連盟(AFC)、J1、J2、J3の 4 種類です。AFC クラブライセンスについては ACL の参加要件となっております。5 月に判定を行い判定結果を対外的に発表いたしました。その後 J1、J2、J3 のクラブライセンスの審査が本格化しますが、J1 ライセンスについては国内ライセンスであるものの、AFC の基準として運用しています。クラブライセンス交付の第一審機関 (FIB) によって 9 月に判定が行われ、9 月の下旬に発表させていただく予定です。J2、J3 の既存 J クラブの審査については 10 月の理事会を予定をしています。新入会を希望するクラブの J3 ライセンスについては 9 月の理事会で判定を行い、公表するという流れになります。

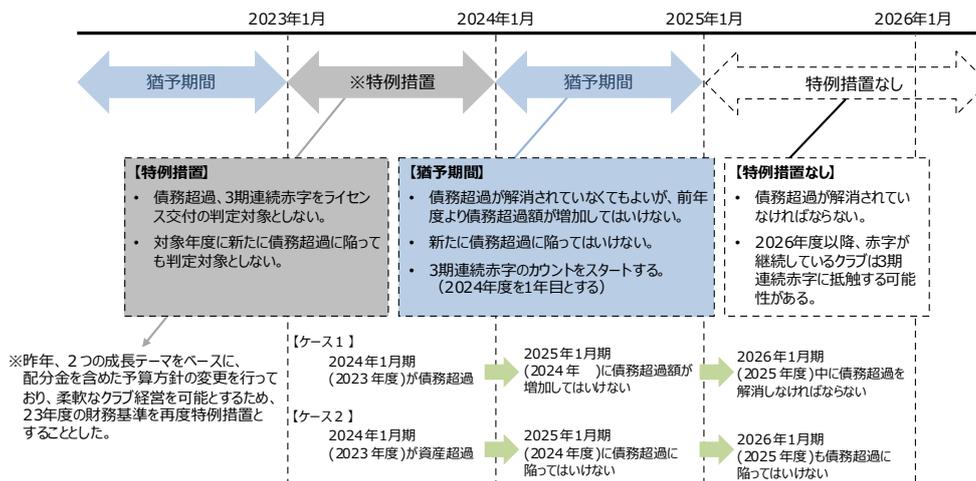
■2023 年度以降の財務基準

## 2023年度以降の財務基準



- 2023年度は再度特例措置とし ※、それを踏まえて猶予期間を 2024年度までに延長。2025年度末から元の基準に戻すこととする（特例措置なし）。

<1月決算クラブの場合>



3

クラブライセンスの判定においてポイントの一つとなる財務基準ですが、財務基準はコロナ以降特例措置や猶予期間など運用が少し複雑になっています。昨年も成長テーマをベースに配分金の検討を行っており、それと並行してクラブの皆様には予算編成をしていただかないといけないという状況がありました。そのため、今期進行中の2023年度については再度特例措置ということで財務基準のポイントである債務超過、3期連続赤字ではライセンス交付の判定対象としないという運用になっています。

ただし、翌年2024年度はまた猶予期間があり、その翌年2025年度が特例措置なしということで、1月決算クラブであれば2026年1月期の決算までに債務超過があれば解消していただき、今後3年間かけて元の形に戻していこうと考えています。

## ■施設基準の例外規定

### 施設基準の例外規定



- 「競技の公平性」を向上させ、「基準充足」のためだけではなく最適な整備計画を検討でき、「理想のスタジアム」の整備が促進される2つの例外規定を制定している。

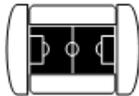
#### 1. 競技の公平性



#### 2. 基準充足に向けた投資



#### 3. 理想のスタジアム



以下の要件を満たしていれば、例外を認め上位のライセンスを取得可能とする

##### 【例外規定 1】

以下の要件を満たす**工事が着工されていれば**、基準を充足しているものと判断する

- ✓ 申請から4年目のシーズンの開幕までに完成するスケジュールであること
- ✓ 工事期間中も試合開催に支障をきたさないと理事会が認めること

##### 【例外規定 2】

「理想のスタジアム」の4要件を満たすスタジアムの整備であれば、完成まで**3年間**の**猶予期間**を設け、基準を充足しているものと判断する

- ✓ 昇格後**3年以内**に、場所・予算・整備内容を備えた**具体的なスタジアム整備計画**を提出すること
- ✓ 5年以内に工事が着工されていれば、例外規定1との組み合わせも可能

【注】上記いずれの例外規定であっても、猶予期間を設定できない**照明・諸室については、従前どおりシーズン開幕までに整備する必要があります**（猶予が可能な項目は、「入場可能数」および「大型映像装置」のみ）

※上記例外規定設置に伴い、**トレーニング施設基準**に関しても、内容は変更せず**猶予期間3年**を設けた

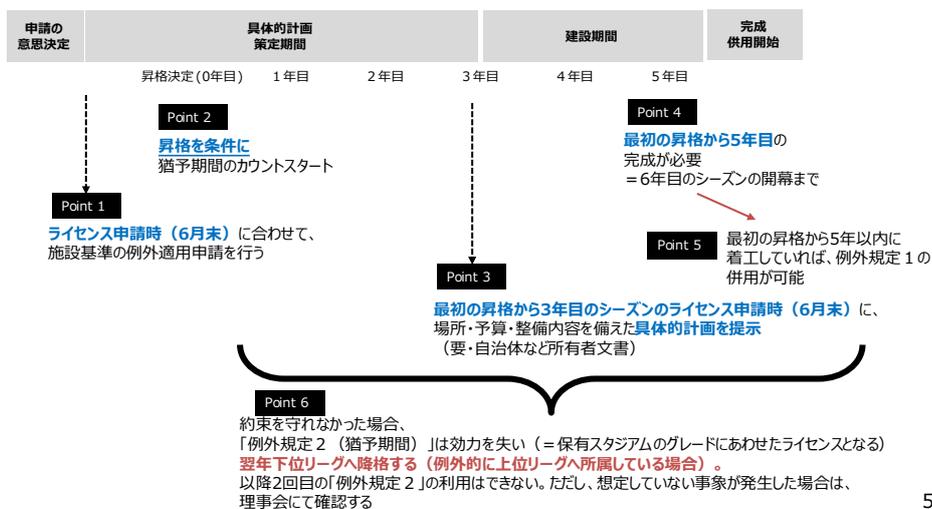
4

## ■例外規定 2(スタジアム)のスケジュール

### 例外規定 2 (スタジアム)のスケジュール



- 昇格を機に猶予期間のカウントがスタートし、3年目で具体的な計画を提示、5年目までに完成することを求めている（例外規定1との併用は可能）。



5

## ■例外規定 2(スタジアム)の該当クラブ

### 例外規定 2 (スタジアム)の該当クラブ



- 本例外規定を活用して昇格したクラブは、相模原、岩手、いわきの 3クラブ。2020年に昇格が決定した相模原は、2023年10月に予定されているクラブライセンス判定にて計画の進捗状況の確認が必要。

申請の 意思決定	具体的計画 策定期間				建設期間		完成 供用開始
	昇格決定(0年目)	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	
相模原	2020年	2021年	2022年	2023年	...		
岩手	2021年	2022年	2023年	2024年	...		
いわき	2022年	2023年	2024年	2025年	...		

6

こちらは 2019 年から運用を開始していて、将来的にスタジアムが整理されるのであれば、先に上位のライセンスを交付するというルールです。その中でも例外規定 2 と呼んでいる、スタジアムを新設していただく例外規定については、このようなスケジュールになっています。昇格を機に猶予期間のカウントがスタートして、1 年目、2 年目、3 年目で具体的な計画を出していただき、5 年目までに整備をしていただくというルールになっています。ただ、資料記載の例外規定1との組み合わせもできますので、着工すればそこから 3 年間、さらに猶予することが可能というルールになっています。このルールに基づいて昇格したクラブは、SC相模原、いわてグルージャ盛岡、いわきFCの 3 クラブです。最初に昇格したのがSC相模原で 2020 年に昇格が決定して、今年 2023 年が 3 年目となりますので、具体的な計画の状況を 10 月に予定されているライセンスの判定に向けて確認していく流れになります。いわてグルージャ盛岡といわきFCは、それぞれこのタイミングが来年 2024 年、再来年 2025 年に訪れるという形になっています。

### ■新スタジアム整備に関する状況確認

一部報道もされている新スタジアム整備に関する状況確認も並行して行っています。施設基準の例外規定と少しわかりにくい状況になっていますが、この 3 クラブについては先ほどご説明した例外規定とは別に、過去に上位ライセンス取得のためにスタジアム基準を一部免除したという経緯がありますので、そちらについてご説明いたします。

## 新スタジアム整備に関する状況確認



- 秋田、鹿児島、琉球の3クラブは、過去に上位ライセンス取得のため、スタジアム基準で定める、「改修時にすべての観客席への屋根設置」を免除した経緯がある。

	秋田	鹿児島	琉球
ホームスタジアムの状況	【ソユースタジアム】 ・ 2018年の改修時に観客席への屋根を設置する必要があったが免除	【白波スタジアム】 ・ 2017年の改修時に観客席への屋根を設置する必要があったが免除	【タビック県総ひやごんスタジアム】 ・ 2015年の改修時に観客席への屋根を設置する必要があったが免除
クラブライセンス上の現在の取り扱い	・ 2019シーズンのクラブライセンス申請において、県・市の新スタジアム整備の意向を受け J 2 クラブライセンスが付与された	・ 2018シーズンのクラブライセンス申請において、県・市の新スタジアム整備の意向を受け J 2 クラブライセンスが付与された	・ 2018シーズンのクラブライセンス申請において、県からの新スタジアム整備の意向を受け J 2 クラブライセンスが付与された

その後の新スタジアム整備に向けた状況確認が必要であり、  
本年のクラブライセンス判定において確認予定

7

それぞれの年度は違いますが内容は同じで、上位のライセンスを取得するためにスタジアムを大規模改修する際に、本来、基準上は観客席の屋根を設置していただく必要がありました。しかし、それぞれの地域で新しいスタジアム整備の構想が動いていたこともあり、クラブとホームタウンの自治体から二重投資になるので少し免除していただけないか、という要請を受け、それぞれ将来の構想があるという理由で屋根の設置を免除したものです。ブラウブリッツ秋田、鹿児島ユナイテッドFC、FC琉球のいずれもその後、上位のライセンスを取得して昇格いたしました。毎年状況は確認していますが、免除したときからそれぞれ 5、6 年経過していますので、改めて今回、通知文書を送る形で状況の確認をさせていただきました。様々な資料もクラブ、自治体からご提出いただいております。本年のライセンス判定においてこの内容を精査していく流れになっています。私からの説明は以上です。このあと 9 月、10 月にかけて判定を行って参りますので、また改めてご報告させていただきます。

仲村広報部長

本日の公表事項は以上です。

### 《協賛・後援》

#### 1. いきがい・助け合いオンラインフェスタ 2023 ※HP掲載

協賛、後援事項として、いきがい・助け合いオンラインフェスタ 2023 はホームページに掲載しています。

### 〔質疑応答〕

Q: 確認ですが、先ほどの最後にご説明していただいたスタジアムの件で、先月鹿児島ユナイテッド

FCが報告するよという通達を受けたと発表されたと思いますが、クラブからはもう(資料は)来ていて、あとはそれを9月、10月で判定するという段階にいるという認識でよろしいでしょうか？

A: 大城クラブライセンスマネージャー

ご質問ありがとうございます。ご認識の通り、いただいた文書を元に9月、10月に判定を行っていくという形になります。

Q: 3クラブとも書類はしっかりと届いていて、あとは判定する段階にあるということでしょうか？

A: 大城クラブライセンスマネージャー

いただいた情報を元に判定を行っていくという形になります。